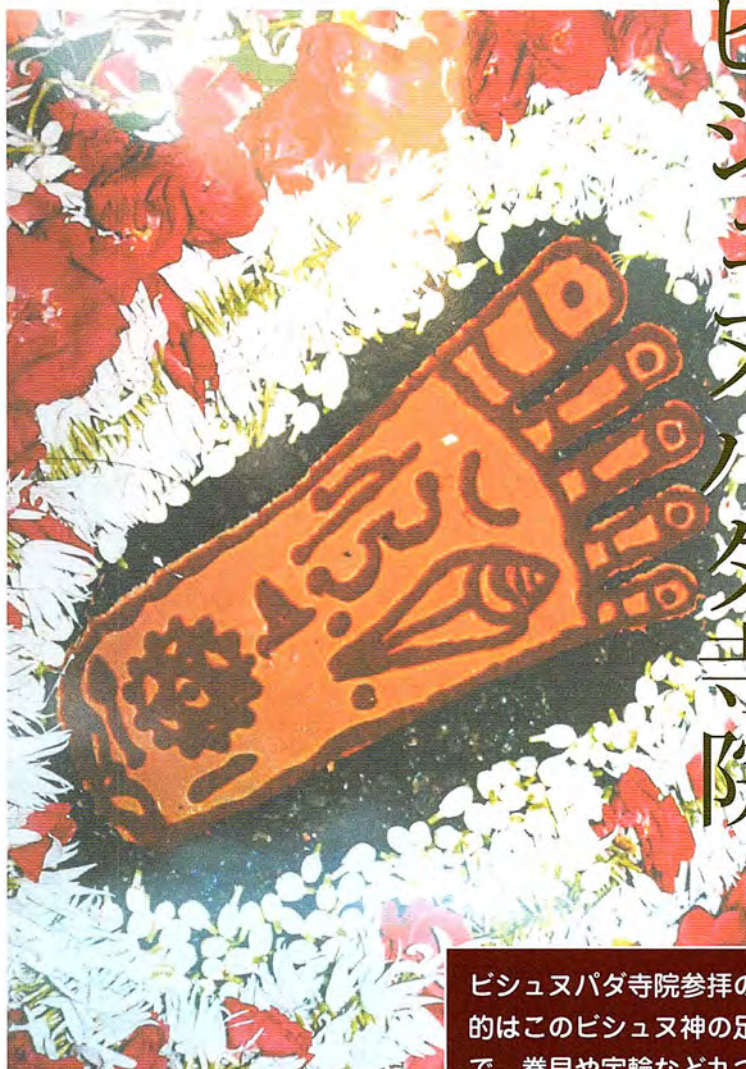


インド渡航歴40回超！

佐藤良純の No. 6

インド・釈尊あれこれ紀行



ガヤの
ビシュ
ヌパ
ダ寺
院

ビシュヌパダ寺院参拝の目的はこのビシュヌ神の足跡で、巻貝や宝輪など九つの印が描かれている

昔、ガヤアシユラというデモン（日本ではデモンは悪魔と訳されるがここでは違う、しいて言えばヒンドゥー教の修行者）が長い間苦行の末、誰でも幸せにする力を手に入れた。それを知ったヒンドゥー教の最高神のひとりであるビシユヌ神は、彼に地球の底に行き右足で悪魔を踏みつけるよう命じた。ガヤアシユラはその命に従い、悪魔を踏みつけた。その足跡はビシユヌ神の足跡として地上に残ったとされる。その足跡が残っているのが、ガヤにあるビシユヌパダ寺院だ。

その足跡は、ビシユヌパダ寺院の一番大きな建物にあり、巻貝や宝輪など九つの印が描かれている足跡で、六角形で囲まれた床にあり、足跡の周りには多くの花が供えられている。全インドからのヒンドゥー教徒が多数訪れ、頭をそこに触れるようにしてお参りし、参拝者は昔から絶えることなく今も続いている。ちなみにこの寺院は複合寺院と呼ばれジャイナ教の寺院もある。複合寺院とは、異なっ



足跡は六角形に囲まれた床に残っている。参拝者はその足跡に自分の頭を触れようと体を乗り出す



ビシュヌパダ寺院のあるガヤはインド北東部のビハール州にある

た宗教の寺院が同じ敷地内にある寺院をいい、珍しい寺院である。これはヒンドゥー教には宗派がなく、他教に対する包容力もあるからこそのことだ。

この足跡の残るガヤという町にはガヤワラと呼ばれる人々がいる。彼らはビシュヌパダ寺院の参拝手配はもちろん、この町に巡礼に来るヒンドゥー教徒の色々な世話をすること、を生業としている。飛行機や汽車の手配、宿の確保、供養の儀式を行うヒンドゥー僧の手配、そして土産物まで用意する。世襲で何代も続いていて、ブッダガヤに参拝にくるヒンドゥー教徒にとっては欠かせない人たちだ。日本という御師である。

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとうりょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学、同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学科長を経て、平成14年退職。大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書に『ブッダガヤ大菩提寺』、『釈尊の生涯』など多数。



カラフルな服に身を包みビシュヌパダ寺院参拝に訪れたヒンドゥー教徒